

心温かい人々が暮らす町

「ヘイトスピーチ」って何？

特定の国の出身者であること又はその子孫であることのみを理由に、日本社会から追い出そうとしたり危害を加えようとするなどの一方的な内容の言動が、一般的に「ヘイトスピーチ」と呼ばれています（内閣府「人権擁護に関する世論調査（平成29年10月）」より）。例えば、

- (1) 特定の民族や国籍の人々を、合理的な理由なく、一律に排除・排斥することをあおり立てるもの（「〇〇人は出て行け」、「祖国に帰れ」など）
- (2) 特定の民族や国籍に属する人々に対して危害を加えようとするもの
- (3) 特定の国や地域の出身である人を、著しく見下すような内容のもの（特定の国の出身者を、差別的な意味合いで昆虫や動物に例えるもの）

などは、それを見聞きした方々に、悲しみや恐怖、絶望感などを抱かせるものであり、決してあってはならないものです。

◇ヘイトスピーチはどこで行われているの？

ヘイトスピーチは街頭での行動や、インターネットやSNSの書き込みなど、一旦拡散すると簡単に削除することが難しい形でも行われています。

◇ヘイトスピーチはなぜしてはいけないの？

ヘイトスピーチは、人々に不安感や嫌悪感を与えるだけでなく、人としての尊厳を傷つけたり、差別意識を生じさせることになりかねません。

一人一人の人権が尊重され、豊かで安心できる成熟した社会の実現を目指す上で、こうした言動は許されるものではありません。

民族や国籍等の違いを認め、互いの人権を尊重し合う社会を共に築きましょう。

◇「自分には関係ない」が新たな差別を生む

日本には民族差別や部落差別、ハンセン病差別、コロナ差別などの様々な差別問題があり、そうした特定の属性の人々に対するヘイトスピーチなどの人権侵害が発生しています。

また、インターネットなどで根拠が不明な感情論的意見が拡散されるなか、多数派が「自分には関係がない」と無自覚であることで、無意識のうちに新たな差別が生まれる可能性もあります。

◇ヘイトスピーチが許されない理由

ヘイトスピーチをする人の中には、「政治的な意見の表明であり、憲法が保障する表現の自由の行使だ」と主張する人がいます。しかし、少数派の人々の平穏に生活する権利、自由に活動する権利、名誉や信用を保有する権利など、基本的人権を侵害するヘイトスピーチは、表現の自由の範囲を超えるものです。

政治的に異なる意見だから、あるいは感情的に許せないからといって、個人の人権を傷つけたり、差別意識を生じさせる恐れのある行為は、許されるものではありません。

人は、どの国の国民として生まれるのか、どのような人種で生まれるのかを選んで生まれてくるわけではありません。自分に責任のない事実によって、差別されてはならないのです。

◇分断ではなく、互いを尊重し合う社会へ

私たちが目指す未来は「多文化共生社会」—お互いの価値観や生き方の相違を尊重し理解するという多様性が尊重される社会です。

ヘイトスピーチを許してしまうと、社会は排除や分断へと向かいます。

偏見や憎悪ではなく、理解と共感があふれる社会を実現するために、社会全体でヘイトスピーチを許さないように努力することが必要ではないでしょうか。

【相談窓口】

【日本語対応】 みんなの人権110番 ☎ 0570-003-110 インターネット人権相談受付窓口 <https://www.jinken.go.jp>

【外国語対応】 外国語人権相談ダイヤル ☎ 0570-090-911 外国人インターネット人権相談 https://www.jinken.go.jp/soudan/PC_AD/0101_en.html
(Foreign-language Human Rights Hotline) (Humanrights counseling services in foreign languages)

町民一人ひとりが相手を思いやり、多様な価値観を認め合う社会をめざしましょう。

「心温かい人々が暮らす、にぎやかな過疎の町」美波町であり続けるために人権について考え守っていくことがまさに、「にぎやかそ」美波町まちづくりにつながります。このコーナーでは人権に対する思いを掲載していきます。



ウミガメ No.18 News Letter

新館長就任!

今年4月から日和佐うみがめ博物館カレッタの館長を拜命した平手康市（ひらて こういち）です。着任前は沖縄県で水産関係の調査、研究、技術開発の側ら、日本ウミガメ協議会副会長としてウミガメの保全に関わってきました。皆様が親しまれている日和佐大浜海岸はウミガメに関わる者にとっては唯一無二の「ウミガメの聖地」でもあり、この「聖地」の長い歴史と住民各位のウミガメへの思いに身の引き締まる思いで着任しました。館長として最初の仕事は、令和5年度美波町ウミガメ保護対策協議会でした。この会は大浜海岸で産卵するアカウミガメの保護対策を決定することです。着任前から日本各地のアカウミガメの産卵状況を見ており、大浜海岸の産卵上陸数の減少は他の産卵地とは違い何か対策が必要と考えていました。ウミガメの産卵上陸数が減少する理由は大き

く2つあり、1つはウミガメそのものが減ってしまうこと。もう1つは砂浜の環境がウミガメの産卵に適さなくなることです。ウミガメの数が減ることで産卵上陸数が減る現象は全国の産卵場で同様に見られますが、特定の砂浜のみで産卵上陸数が減少する場合は後者が強く疑われます。ウミガメは人が火を使い始めるよりも遙か昔から暗く外敵のいない静かな砂浜で産卵をしてきました。これまで大浜海岸では砂浜に人工の光を入れない努力と、熱心な保護監視の下で産卵観察会が行われていました。ただ、あまりに熱心な保護活動や産卵観察会はウミガメには外敵と区別がつかず産卵の妨げとなる事があり、私にもその経験があります。そこで今年度の産卵観察会中止とウミガメに配慮した保護監視活動を対策協議会に提案し承認されました。大浜海岸が「聖地」と呼ばれる理由には住民生活とウミガメの産卵が近くにあることもあります。なので、いつまでも観察会を中止にすることは私も本意ではありません。昨年までは新型コロナの為にやむを得ず観察会を中止しましたが、今年はいま一度、ウミガメに歩み寄り、ウミガメと住民の良い関係の持続を考える「前向き」な理由で中止にさせていただきますので、ご理解をよろしくお願いいたします。（館長：平手康市）

うみがめについての質問をお送りください。お答えします!
〒779-2304 徳島県海部郡美波町日和佐 浦370-4 うみがめ博物館カレッタ「質問係」



応募フォーム

Question

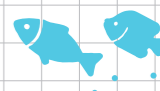
なぜ、カレッタではウミガメの甲羅を洗っているの？

Answer

甲羅の汚れは、海中では岩などでこすり落としたり、魚などが食べてくれますが、水槽の中ではそれができません。キレイに洗って見栄えを良くするのも理由ですが、歯磨きと同じでウミガメの健康管理と体の異常をチェックしながら洗っています。



太平洋に面する美波町では多くの生き物たちが生息しています。このコーナーでは実際に撮影してきたリアルな写真と共にいろんな生き物たちをご紹介します!



浮遊生物 Plankton

みなさんが海中の世界を想像するとき、どのような風景を思い浮かべますか?岩礁やサンゴ礁に集まる魚の群れ、ウミガメやイルカが泳いでいる風景などでしょうか?そのようなダイナミックに生物が活動する風景もあれば、何も無い空間に様々で不思議な形をした生物が漂う風景もあります。これらの生物は泳ぐ力が弱く浮遊生活をする生物で、小さなエビやカニの仲間、子供の時にだけ浮遊生活を送る一部の魚、クラゲの仲間、単細胞の藻類などが含まれます。このグループの生物は水深数メートルほどの浅いところから、深海まで広く生息しています。写真の浮遊生物は全て水深5メートル以内で撮影したものです。
(ダイバー：長楽美保)

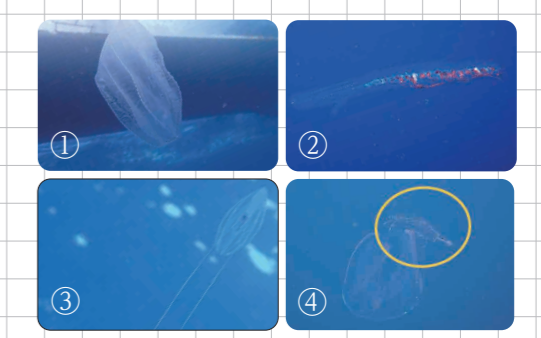


写真
①ウリクラゲの仲間
②ヨウラククラゲの仲間
③フウセンクラゲ
④チョウクラゲを食べているウミノミの一種 (右上：エビ、カニの仲間)